

6 - 13 西天生における全磁力変化 (1984 年 11 月～1985 年 8 月)

Variation of Geomagnetic Total Force at Nishiamo for the Period from November 1984 to August 1985

京都大学防災研究所

上宝地殻変動観測所

Kamitakara Crustal Movement Observatory

Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

当観測所では、岐阜県北部から富山県立山にかけて約 60km にのびる跡津川断層西端の天生で、1984 年よりプロトン磁力計による地磁気全磁力の連続観測を開始した。

ここでは、1984 年 11 月 1 日より 1985 年 8 月 23 日までの西天生 (AMO) における連続観測の結果と柿岡 (KAK) の記録を比較した結果について報告する。

第 1 図は、全磁力観測点 AMO ($\psi=36^{\circ} 16' 10''$ N, $\lambda=137^{\circ} 01' 27''$ E), KAK ($\psi=36^{\circ} 13' 45''$ N, $\lambda=140^{\circ} 11' 23''$ E) との位置関係を示したものである。

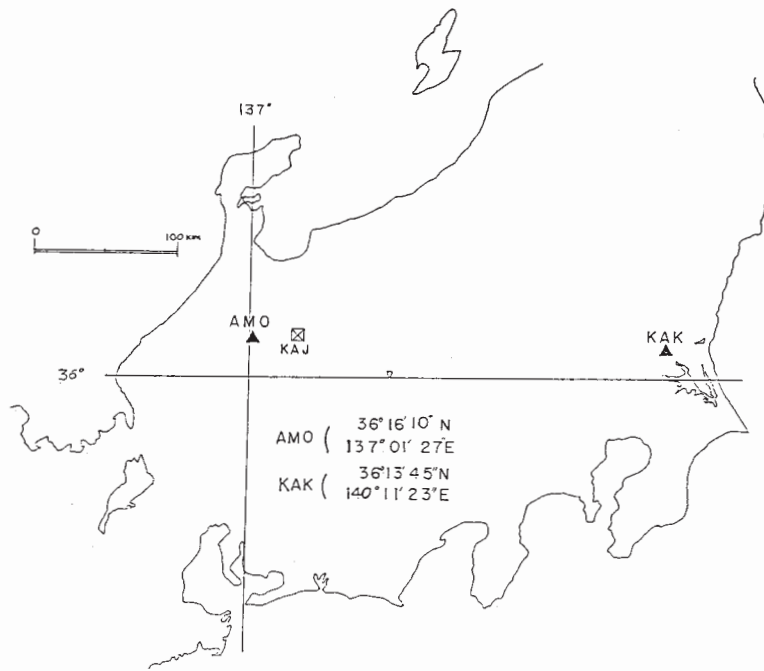
第 2 図は、AMO 及び KAK 全磁力の毎時値 (LT) をそれぞれ 2 か月毎に分け、上段に AMO、下段に KAK をそれぞれ図示したものである。なお、図中横軸の日付を示す線の上下位置関係については特別の意味をもたせていない。

第 3 図は、第 2 図より得られた結果から 1 日の平均値を求め、AMO と KAK との差を全期間を通して 1 つに図示したものである。なお、グラフの中で欠けている部分は、観測点、記録室等の停電、または落雷等による計測器の故障等によるものであるが、期間中の観測率は 98% であった。

第 2 図から、AMO は KAK によく対応していることが分る。第 3 図の AMO と KAK の 1 日平均値の差は、全期間を通して 1nT 程度以内であり、かつ観測記録についてのドリフトも 1 ~ 2nT 以下で観測は安定しているものと思われる。また、付近のノイズも小さなものではないかと考えている。図中で一部に差がやや大きく現われている部分が認められるが、この点についての検討は今後の課題としたい。なお、全磁力の期間中の平均値は、AMO : 47.083nT, KAK : 46.041nT であった。

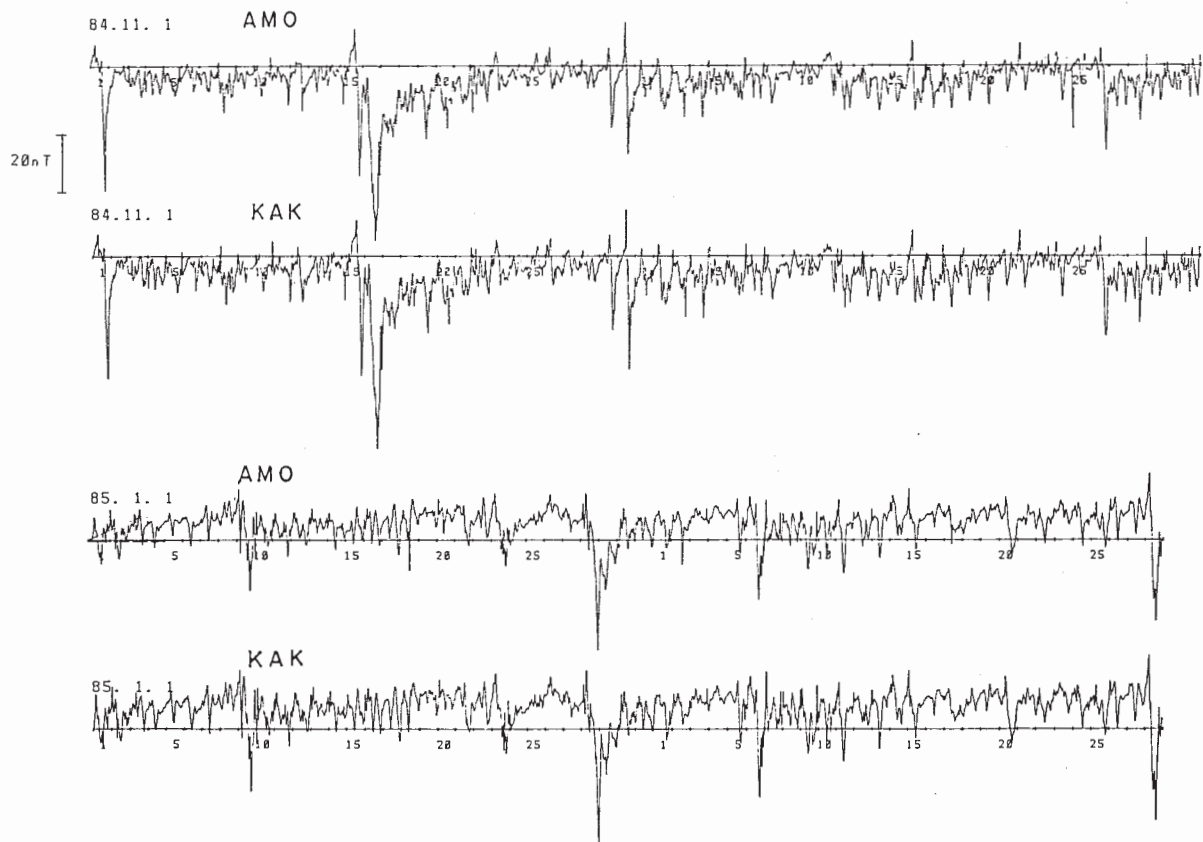
参 考 文 献

気象庁地磁気観測所地磁気毎時値速報月報



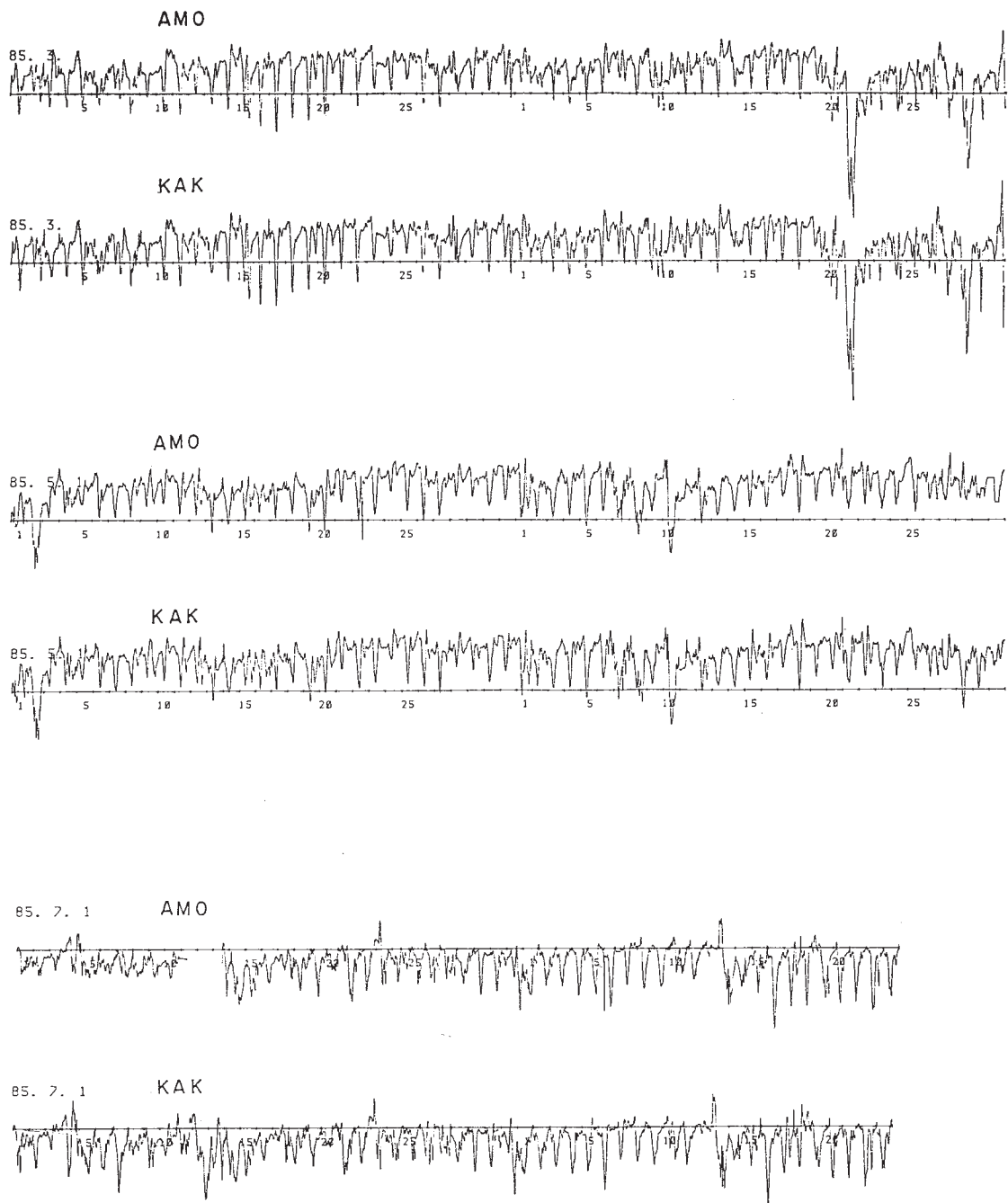
第1図 全磁力連続観測点 (AMO, KAK)

Fig. 1 Location of magnetic stations.

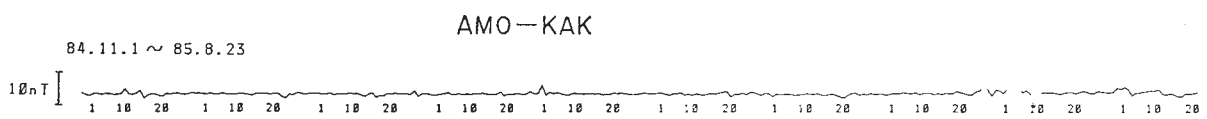


第2図 連続観測点での全磁力変化

Fig. 2 Comparison between the geomagnetic total intensities at Nishiamo and Kakioka.



第2図 つづき
Fig. 2 (Continued)



第3図 西天生 (AMO) と柿岡 (KAK) における全磁力差の月平均値の変化

Fig. 3 Variations of daily means of difference in geomagnetic total intensity between AMO and KAK.